

基本目標Ⅳ

# 暮らしづくり



IV-1

愛着をもって地域で共生できるまち

IV-2

人を惹きつける住み続けたいまち

IV-3

エコロジータウンの歩みを止めない  
1人1人が考え、行動するまち

IV-4

豊かな暮らしの基盤を築くまち

IV-5

ミライへのイノベーション、DXで地域をつなぐまち



## IV-1 愛着をもって地域で共生できるまち

### 【課題・基本方針】

内子町では住民主体の地域づくりを進めるため、自治会制度を導入しています。各自治会は「地域の夢や目標、地域づくりの方向性」を明らかにするために、地域の現状に合った個性ある「地域づくり計画書」を策定し、それに基づく事業を推進しています。しかし、主体的・未来志向型の自治会が少なく、多くの地域づくり計画が形骸化や前例踏襲となっている現状があります。加えて人口減少や高齢化により、役員や後継者といった担い手も不足し、自治会制度の負担感が増しています。また、若い世代などの関心が薄いことから縦のつながりが弱くなり、自治会加入率や活動参加率の低下、地域文化の継承機会の減少、孤立する住民の増加に伴う要支援者の把握が困難なことなどが課題として挙げられます。

このような現状ですが、地域での顔の見える関係性や自助共助の精神は日々の暮らしにおいて欠かせないものであり、自治会はその地域コミュニティの土台となるものです。そういった日々の暮らしが地域への愛着を生み、かつ地域の風景をつくり、地域文化の継承やビジネス機会の創出などにつながります。

そのために、持続可能な自治会運営の支援や、主体性を持った地域づくり事業の支援を進めます。またそれぞれの地域課題に応じて、外部人材の登用など新たな取組をともに検討していきます。



◀ 地域住民が知恵や力を出し合って  
さまざまな取組みを実践

世代を超えた地域行事への  
参加・交流 ▶



## 【主な取組】

### (1)自治会運営の支援

- 持続可能な自治会運営を推進するため交付金などの支援を行います。
- 人口減少や高齢化が進む中、時代に合わせた自治会の再編等支援を行います。
- 持続可能な自治会活動を見据え、デジタル技術導入支援などにより、効率化及び活性化を図ります。

関連事業：自治会の運営支援 ほか

### (2)地域づくり事業推進のための支援

- 自治会が取り組みたい事業の実施に向けて、好事例の紹介や先進地視察研修案の提示など、地域づくり事業推進のための伴奏支援を行います。
- 地域づくり事業費補助金により自治会を支援します。
- 地域づくり担当職員を引き続き配置します。

関連事業：地域づくり事業の推進／事業の広域連携の支援／世代間交流の推進支援／文化継承に向けた支援 ほか

### (3)外部人材を活用した地域活性化

- 新たな視点による地域の魅力再認識や地域活性化を図るため、各地域への地域おこし協力隊や地域活性化起業人などの外部人材を積極的に受け入れます。

関連事業：地域おこし協力隊導入／外部人材の積極的な受け入れ等

## 【重要業績評価指標】

| 指標の名称                 | 現状値<br>(令和5年度) | 目標値<br>(令和11年度) |
|-----------------------|----------------|-----------------|
| 地域づくり事業の活動支援（単年度）     | 49 事業          | 60 事業           |
| 地域づくり先進事例の情報提供（単年度）   | —              | 3 回             |
| 自治会間の連携事業の支援（単年度）     | —              | 2 カ所            |
| 外部人材（地域おこし協力隊）の導入（累計） | —              | 5 人             |

## 【SDGs 17の目標との関係性】

| 目標  | 考え方                             | 目標   | 考え方             |
|---|---------------------------------|--|-----------------|
| <br>11 住み続けられるまちづくりを | 住み続けられるまちづくりのための連携やコミュニケーションの充実 | <br>17 パートナシップで目標を達成しよう | SDGs を意識した取組の推進 |

## IV-2 人を惹きつける住み続けたいまち

### 【課題・基本方針】

内子町では様々な移住促進の施策を行ってきました。その一つとして地域おこし協力隊制度を導入し、令和6（2024）年度までに23人の隊員が着任しました。中には、退任後も町内に定住し、地域の担い手として活躍している人が多くいます。ほかにも移住した人の中には内子町のまちづくりを支える存在となっている人も多く、彼らに共感して来訪・移住者も増え、よい人の循環が生まれています。さらに、移住の検討者や新規移住者にとっても心強い先輩移住者となっています。

一方で人口減少や少子高齢化の進行は止まらず、特に出生者数の低迷は大きな課題となっています。また進学・就職のタイミングで転出する人が男女とも圧倒的に多く、社会減の大きな要因となっています。ただ、若者の回復率や生産年齢人口の今後の推計の回復度合いをみると、移住者やUターン者に対する施策は効果的であることがいえるため、移住促進施策は重要です。

今後は、移住希望者に届くような情報発信に努めるとともに、内子町出身者のUターンや地域おこし協力隊などの外部人材活用による定住促進を図ります。また移住者の受け入れ体制として、住まいや仕事の確保支援、移住コーディネーターをはじめとするサポート体制の充実に取り組みます。また、内子町に魅力を感じてくれる関係人口の増加に向けた取組も推進します。

併せて、子育て・医療・産業・防災・環境・自治会・教育など様々な分野でまちの魅力を底上げすることで、人を惹きつけ、住み続けたいまちを目指します。



◀ よりリアルな地域性を  
知ってもらう移住相談

農業に関心のある若者も多い ▶



## 【主な取組】

### (1)情報発信と移住のきっかけづくり

- 内子町移住定住支援サイト「うちこんかい」をはじめ、移住にまつわる情報発信ツールを強化します。
- 各課と連携し、ターゲットやテーマの設定、それに伴う情報の収集・整理を行い、効果的な情報提供を促進します。
- 都市部での移住フェアへ積極的に参加し、仕事や住まい、まちの魅力などの情報提供の充実を図ります。
- 内子町出身者のUターン移住の後押しに向けた取組を検討します。
- 地域の担い手の確保のきっかけづくりとして、地域おこし協力隊制度等を積極的に活用します。

関連事業：移住支援サイト「うちこんかい」の充実／新たな SNS 活用／移住フェアの参加／地域おこし協力隊制度の活用 ほか

### (2)地域における受け入れ体制の整備

- 空き家バンクの充実や空き家活用など、定住に向けた住まい確保の対策を検討します。
- 関係機関との連携による空き家活用のためのネットワークづくりを検討します。
- 仕事や就業支援について、各種団体との情報共有等連携を強化します。
- 移住コーディネーターをはじめとする、移住希望者へのサポート体制の充実を図ります。
- ワーケーションや都市と地方の2拠点生活など、多様な暮らし方による関係人口の増加に向けた取組を推進します。

関連事業：空き家バンク制度／移住コーディネーター制度／関係人口創出事業／移住者住宅改修支援事業 ほか



地域おこし協力隊の活躍でまちの魅力の幅が広がる

## 【重要業績評価指標】

| 指標の名称                  | 現状値<br>(令和5年度) | 目標値<br>(令和11年度) |
|------------------------|----------------|-----------------|
| 移住に関する相談件数（単年度）        | 103件           | 120件            |
| 移住定住支援サイト「うちこんかい」表示回数  | 月平均 601回       | 月平均 720回        |
| 地域おこし協力隊の採用者数（累計）      | 18人            | 36人             |
| 空き家バンク登録件数（累計）         | 53件            | 83件             |
| 移住コーディネーターの地域案内件数（単年度） | 133件           | 200件            |

## 【SDGs 17の目標との関係性】

| 目標   | 考え方                    | 目標  | 考え方                    |
|--|------------------------|---|------------------------|
|  <p>1 貧困をなくそう</p>        | 移住後の就業など暮らしやすい環境の整備の促進 |  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>      | 移住者が受け入れられ住みやすい環境整備の推進 |
|  <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> |                        |  <p>16 平和と公正をすべての人に</p>      | 必要な移住情報の提供             |
|  <p>8 働きがいも経済成長も</p>    | 移住希望者等への仕事情報の提供等の支援    |  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> | SDGsを意識した取組の推進         |

## IV-3 エコロジータウンの歩みを止めない

### 1人1人が考え、行動するまち

#### 【課題・基本方針】

内子町は小田深山や清流小田川をはじめとする豊かな自然と、その風土に育まれた歴史や文化、美しい景観を次世代につなぐために、様々な環境保全活動を実践しています。また、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするという世界共通の目標を踏まえ、内子町においても令和5(2023)年3月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、脱炭素化の取組をスタートしました。

いま地球は、気候変動や生物多様性の喪失など、かつて経験したことのない環境危機に直面しています。この状況に立ち向かうため、「町並み、村並み、山並み」に象徴される地域の貴重な資源や魅力を引き継ぎながら、脱炭素社会の実現に向けて1人1人が自分にできることを考え、行動を変えていくことで、まちの持続可能性を高め、地球環境の改善に貢献します。

#### 【主な取組】

##### (1)「ゼロカーボンシティうちこ」の実現に向けた取組

- 再生可能エネルギーの地産地消を推進し、災害時にも活用できるエネルギーの確保を図るとともに、エネルギー代金の地域内循環による経済活性化を目指します。
- 豊かな森林資源の循環利用を促進し、二酸化炭素吸収量の拡大と林業振興に取り組みます。
- 家庭への太陽光発電システム等の導入、住宅のZEH化、電気自動車の購入などを支援し、再生可能エネルギーの普及を図ります。
- 公共施設への再生可能エネルギーの導入を推進します。
- 家庭や事業所等における省エネ化の取組を支援します。

関連事業：太陽光や木質バイオマス等を活用した創エネの推進／家庭や公共施設等における再エネ設備・EV車等の導入促進／省エネ推進の取組 ほか

##### (2)内子らしさを育む自然環境の保全

- 生き物調査等を通じて貴重な動植物や内子町特有の生態系について把握し、保全に向けた取組と体制づくりを進めます。
- 生活排水対策、各地域におけるクリーン活動の実施、源流となる森林の水源涵養機能の保全などに取り組みます。

関連事業：生き物調査／保全プラン作成／河川等の水質調査の実施／河川美化活動の推進 ほか

### (3) サステナブル（持続可能）なライフスタイルへの転換

- 5 R 推進によるごみの減量化に取り組み、ごみゼロを目指してチャレンジします。
- ごみ出し困難世帯の増加に対し、それぞれのニーズにあわせたごみ出し支援体制の構築に取り組みます。
- 国が示すごみ焼却施設の広域化計画を踏まえ、近隣市町と連携して協議を進めるとともに、プラスチックごみの分別収集や生ごみの分別収集対象地域の拡大等について検討します。
- グリーン購入や農作物の地産地消を推進し、資源と経済の地域内循環及び製造や配送にかかる二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 生ごみの堆肥化や廃食油を用いた BDF 燃料の製造に加え、未利用のバイオマス資源の活用について検討し、バイオマスタウン構想のさらなる展開を目指します。

関連事業：5 R 推進／ごみ出し支援の体制づくり／ごみ焼却施設の広域化等に関する検討／未利用のバイオマス資源の調査と活用策の検討 ほか

### (4) エコロジータウンのまちづくりを進める環境教育の推進

- 子どもから大人まですべての世代で、様々な機会を捉え、各種団体や自治会等と連携して、実践に結びつく環境学習を推進します。
- 環境こども会議の継続や、保育園・幼稚園から小学校、中学校へとつながる環境教育を推進します。
- 豊かな自然環境や地域の歴史や文化を生かした、内子町ならではの環境教育に取り組みます。

関連事業：自然観察会の実施／ESD 教育の推進／自治会や各種団体等における環境学習活動の支援 ほか



◀ 環境の変化を考える  
水中生物観察会

ゼロカーボンシティうちこの実現に  
向けて開催される学習会 ▶



## 【重要業績評価指標】

| 指標の名称                               | 現状値<br>(令和5年度) | 目標値<br>(令和11年度) |
|-------------------------------------|----------------|-----------------|
| 再生可能エネルギーの導入量（累計）                   | 7,178kW        | 9,015kW         |
| 地球温暖化対策設備等及び電気自動車導入促進事業補助金の交付件数（累計） | 240 件          | 380 件           |
| 生態系保全プランの作成（累計）                     | 0 件            | 2 件             |
| 一般廃棄物のリサイクル率                        | 17%            | 50%             |
| 1人1日当たりごみ排出量                        | 723g           | 600g            |
| 環境学習の実施回数（単年度）                      | 30 回           | 40 回            |

## 【SDGs 17の目標との関係性】

| 目標  | 考え方                 | 目標  | 考え方              |
|---|---------------------|---|------------------|
| <br>2 飢餓をゼロに              | 生物多様性や資源の大切さの共有     | <br>12 つくる責任 つかう責任        | 廃棄物の縮小と資源の再利用の促進 |
| <br>3 すべての人に健康と福祉を       | 騒音、水質・土壌汚染等の防止の啓発   | <br>13 気候変動に具体的な対策を      | 環境危機に行動できる人材の育成  |
| <br>4 質の高い教育をみんなに        | 環境教育の推進             | <br>14 海の豊かさを守ろう         | 生物多様性など川の環境改善の推進 |
| <br>6 安全な水とトイレを世界中に      | 排水による水質環境の悪化防止      | <br>15 陸の豊かさも守ろう         | バイオマスタウン構想の推進    |
| <br>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 持続可能な再生可能エネルギーの活用推進 | <br>17 パートナリシップで目標を達成しよう | SDGs を意識した取組の推進  |
| <br>11 住み続けられるまちづくりを     | 廃棄物の縮小と資源の再利用の促進    |   |                  |

## IV-4 豊かな暮らしの基盤を築くまち

### 【課題・基本方針】

内子町は点在する集落・民家が多く、それに伴い町管理道も多くあります。それら集落をつなぐ道路や橋梁、水道などのインフラは更新時期にきているものの、整備が追い付いていない現状にあります。また、農地や山林が適切に管理されていないために、近隣の集落やインフラが影響を受ける事例が発生しています。一方、人口減少等の影響により地域公共交通の運営や継続が困難なケースも出てきています。

今後は、日常の当たり前の暮らしを維持するため、また、大規模災害時にも耐えうる基盤として、インフラの維持管理及び計画的な耐震化を含む更新を進めていきます。併せて現代の耐震基準に満たない木造住宅も多く、それらの耐震化や除却を促進することで安心した暮らしの確保を支援します。また地域公共交通網についても、時代に合い、内子町の実情にマッチした施策の導入を検討していきます。



◀ 道路や橋梁等の点検・修繕は  
順次実施

山間部の高齢者の交通手段として  
欠かせないデマンドバス ▶



## 【主な取組】

### (1) 持続可能なインフラ整備の推進

- 生活に密接にかかわる道路・橋梁、上下水道の維持管理及び計画的な耐震化を含む更新を進めます。
- 庁舎や自治センター、学校などの公共施設について、維持管理及び統廃合の検討、耐震化を含めた計画的な更新を進めます。
- 近年注目されているグリーンインフラ<sup>\*11</sup>についての導入可能性等、適正な土地利用の推進を図ります。
- 公共施設や人家集落等への被害を未然に防止するため、未整備の里山林や急傾斜地等について整備を支援します。

関連事業：道路・橋梁、水道などの公共施設のインフラ整備／里山林整備事業 ほか

### (2) 建築物の耐震化促進

- 大地震時における住宅の倒壊を防止するため、木造住宅の耐震化を支援します。
- 老朽化して倒壊のおそれのある危険な空き家について、大地震時における避難路の閉塞等を防止するため、老朽危険空き家の除却を支援します。
- 大地震時におけるブロック塀の倒壊による避難路の閉塞等を防止するため、ブロック塀等の撤去や建替えを支援します。

関連事業：木造住宅耐震診断／木造住宅耐震改修／老朽危険空き家除却 ほか

### (3) 地域公共交通網の整備

- 町営バス、デマンドバスの運行について引き続き適切なバス路線の確保を行います。
- 地域公共交通計画に基づき、利便性の高い公共交通網の構築を目指します。
- 地域の实情に応じた輸送手段確保に向けて、「住民による助け合い輸送」などの内子版ライドシェアを検討します。
- 来訪者の二次交通の手段確保等、カーシェアリングの導入を図ります。

関連事業：バス路線の確保／住民による助け合い輸送の検討 ほか

<sup>11</sup> グリーンインフラ：グリーンインフラストラクチャー（GreenInfrastructure）の略。経済活動や生活をする上で欠かすことができないインフラに、グリーン（緑）つまり自然の持つ様々な機能を課題の解決手段として取り入れ活用する、という取組や考え方のこと。

例）洪水を防ぐ遊水地、津波の力を弱める海岸防災林、ヒートアイランド対策における屋上緑化、地域住民による緑地再生など

## 【重要業績評価指標】

| 指標の名称              | 現状値<br>(令和5年度) | 目標値<br>(令和11年度) |
|--------------------|----------------|-----------------|
| 上水道 基幹管路の耐震化率      | 36.9%          | 45.6%           |
| 内子町浄化センター目標耐用年数超過率 | 0.80           | 1.00            |
| 町道の整備数（単年度）        | 3路線            | 3路線             |
| 橋梁の修繕工事数（単年度）      | 2橋             | 3橋              |
| 木造住宅耐震診断（単年度）      | 4戸             | 10戸             |
| 木造住宅耐震改修（単年度）      | 1戸             | 3戸              |
| 老朽危険空き家除却（単年度）     | 15戸            | 15戸             |
| 住民による助け合い輸送の実施（累計） | 0地域            | 5地域             |

## 【SDGs 17の目標との関係性】

| 目標   | 考え方                  | 目標  | 考え方                           |
|--|----------------------|---|-------------------------------|
| <br>2 飢餓をゼロに          | 買い物や通院など交通弱者の輸送手段の確保 | <br>10 人や国の不平等をなくそう      | 移動の利便性向上及び地域格差の解消             |
| <br>3 すべての人に健康と福祉を    |                      | <br>11 住み続けられるまちづくりを     | 公共交通機能の維持及び住宅耐震化、インフラ設備の耐震化促進 |
| <br>6 安全な水とトイレを世界中に   | 水道施設の持続可能な維持管理及び整備   | <br>13 気候変動に具体的な対策を      | グリーンインフラによる災害の抑制化             |
| <br>8 働きがいの経済成長も      | 輸送手段確保に伴う新たな仕事の創出    | <br>15 陸の豊かさも守ろう         | 適正な森林管理                       |
| <br>9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 強靱なインフラ構築の推進         | <br>17 パートナーシップで目標を達成しよう | SDGs を意識した取組の推進               |

## IV-5 ミライへのイノベーション、DXで地域をつなぐまち

### 【課題・基本方針】

国においては、「デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」というデジタル田園都市国家構想が推進されています。愛媛県においては、愛媛県市町 DX<sup>※12</sup>推進会議を設置し、DXに精通した専門人材による各市町のサポートなどの支援を行っています。

本町では、情報通信の基盤となる光回線の町内全域（居住エリア）整備や、一部庁舎・観光施設などに公衆無線 LAN を整備するなど住民及び来訪者の通信環境を整えました。また、新型コロナウイルス感染症の流行を機にテレワークや WEB 会議が定着する中、町内にはテレワーク対応可能な施設が複数整備されています。学校教育では GIGA スクール構想の実現に向け、生徒や教員の ICT 活用が進んでいます。

一方で、地域間や年代でのデジタルデバイド<sup>※13</sup>が課題として挙げられます。行政においても DX の必要性は理解しつつも実行が伴っておらず、DX 推進のための体制整備が不十分です。

今後は、すべての住民がデジタル技術を活用しよりよい生活ができるよう、また様々な分野においてデジタル技術を活用し新たな価値の創造や利便性の向上が図れるよう、そして行政においては多様化し複雑化する社会に順応し、より良い公共サービスを提供できるよう DX を推進します。



▲ 情報格差の解消を図るスマートフォンの使い方教室

マイナンバーカード等を  
活用する「書かない窓口」 ▶



<sup>12</sup> DX（デジタルトランスフォーメーション）：行政や住民・事業者等が、デジタル技術も活用して、住民本位の行政を実現し、地域社会等を再構築するプロセスのこと。

<sup>13</sup> デジタルデバイド（情報格差）：情報通信技術（インターネット等）の恩恵を受けることのできる人とできない人の間に生じる格差のこと。

## 【主な取組】

### (1)DX 推進計画の策定・実行

- 変革する社会に対応するフレキシブルな体制づくりを進めます。
- DX 推進計画を策定し、産官民学との連携や啓発、意識改革、庁内改革など推し進めます。
- 今後の社会情勢に対応できるよう、行政サービス×ICT や産業×ICT など、日常により ICT を取り込むことで、生産性や利便性の向上、効率化・省力化の促進などを図ります。

関連事業：DX 推進計画の策定 ほか

### (2)情報通信基盤の強化

- 町内全域に整備された情報通信基盤（光回線による高速通信網）の有効な利活用の促進を図ります。
- 災害時における避難者の情報収集手段を確保するため、避難所等からのインターネット接続環境を整備します。
- 今後急増するビックデータの流通を可能とするネットワーク基盤（Beyond 5G）等の動向を踏まえた町の情報通信基盤整備構想の検討を進めます。
- 通信サービス等を受けられないエリアについて、今後の方向性を検討します。
- 非常時でも継続的に通信サービスを利用できる環境の整備や、代替手段の検討を進めます。
- 住民相互や事業者とデジタル技術を介して交流や意見交換、価値の創造につながるプラットフォームを整備します。

関連事業：情報通信基盤の強化／避難所等のインターネット接続環境整備 ほか

### (3)デジタルを利活用できる人づくり

- デジタルデバイド対策など基礎的なデジタルリテラシーを向上させるための施策を推進します。
- 職員がデジタル技術を効果的に活用できるよう、データ活用のためのツール整備や、リテラシー向上のための研修等を実施します。
- 外部人材の活用など、多様な人々のニーズに沿った効率のよい公共サービスなどを提供できるよう人材の確保に取り組めます。

関連事業：デジタルデバイド対策事業／デジタルリテラシー向上研修 ほか

## 【重要業績評価指標】

| 指標の名称                  | 現状値<br>(令和5年度) | 目標値<br>(令和11年度) |
|------------------------|----------------|-----------------|
| DX推進計画の策定              | 未策定            | 策定              |
| インターネット接続可能な避難所数(累計)   | 16             | 30              |
| 地域情報通信基盤整備方針(仮称)の策定    | 未策定            | 策定              |
| デジタルデバイド対策事業数(単年度)     | 1件             | 3件              |
| 職員のデジタルリテラシー向上研修数(単年度) | 1件             | 3件              |

## 【SDGs 17の目標との関係性】

| 目標   | 考え方                  | 目標   | 考え方                     |
|--|----------------------|--|-------------------------|
|  <p>4 質の高い教育をみんなに</p>      | 子どもたちの質の高い教育環境の整備支援  |  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>     | インフラの効率的な管理支援           |
|  <p>8 働きがいも経済成長も</p>      | 効率化・省力化した生産性の高い職場づくり |  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>     | テレワークやペーパーレスによる環境負荷軽減促進 |
|  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> | 産業の生産性向上の支援          |  <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> | SDGsを意識した取組の推進          |